

JIRA画像システム部会
診断レポート検討委員会
活動報告

井桁 嘉一
日立メディコ

2007年9月27日

背景

放射線部門での読影は日々画像枚数が増加し、読影医の負担も増えている。電子カルテの普及に伴い、放射線部門からの画像、レポートの配信、参照のニーズが増えている。

読影レポート検討委員会の目的

読影レポートの標準化を目指し、レポートコンテンツ、レポートの作成ワークフローについて検討を行う。

具体的方法

IHEのプロファイル

- ・SINR (Simple Image Numeric Report)
- ・RWF (Reporting Workflow)

の 日本における適合について検討を行う。

2006年度の検討内容

RWFの日本での適用について ユースケースの仮題抽出と検討を実施

内 容

RWFのユースケース検討

11あるユースケースについて、日本の現場での使用状況と比較検討した。

①Usecase1 – Predefined Report

特に問題なく適用は可能

②Usecase2 Workitem Deferred

一保存の概念と異なるが、別途一時保存の検討が日本では必要。

③ Usecase3 Direct Report Creation

特に問題なく適用が可能。

④ Usecase4 Interpretation and dictation

特に問題なく適用可能

⑤ Usecase5 Transcription

特に問題なく適用可能

- ⑥ **Usecase6 Partial Completion**
実装においては検討が必要。
- ⑦ **Usecase7 Verification**
問題ないが、日本では「完了」の考え方について別途検討が必要。
- ⑧ **Usecase8 Double Reading**
日本での今すぐの運用はない。実装は今後の課題。
- ⑨ **Usecase9 Comparison**
実装で課題はあるが適用は可能
- ⑩ **Usecase10 Review**
適用は可能
- ⑪ **Usecase11 Over read**
研修医がVerifyしたレポートはIHEでは公開されてしまうが、日本ではしない。

検 討 課 題

(1) 日本における「一時保存」について

日本では、**レポートを中断するユースケース**がある。例えば、読影医がレポートを書いている途中で、**緊急の呼び出し**により中断する場合。**一時離席して途中から始める場合**。このようなユースケースが**今のRWF**にはなく、日本においてRWFを適用するに当たっては障害となることが読影ワークフローWGから指摘された。

(2) レポートの配信について

読影レポートを病院内に配信することが近年非常に多い。しかし配信についてRWFで検討すると、レポート保存されるとRWFでは承認以前のレポートも他部門から見ることができ、日本の運用上よくないという問題点が指摘された。

結 論

(1) 「中断」「中断からの再開」を新たにユースケースとして提案

(2) レポートの配信については別途検討の場を考える。

提案する新しいユースケースについて

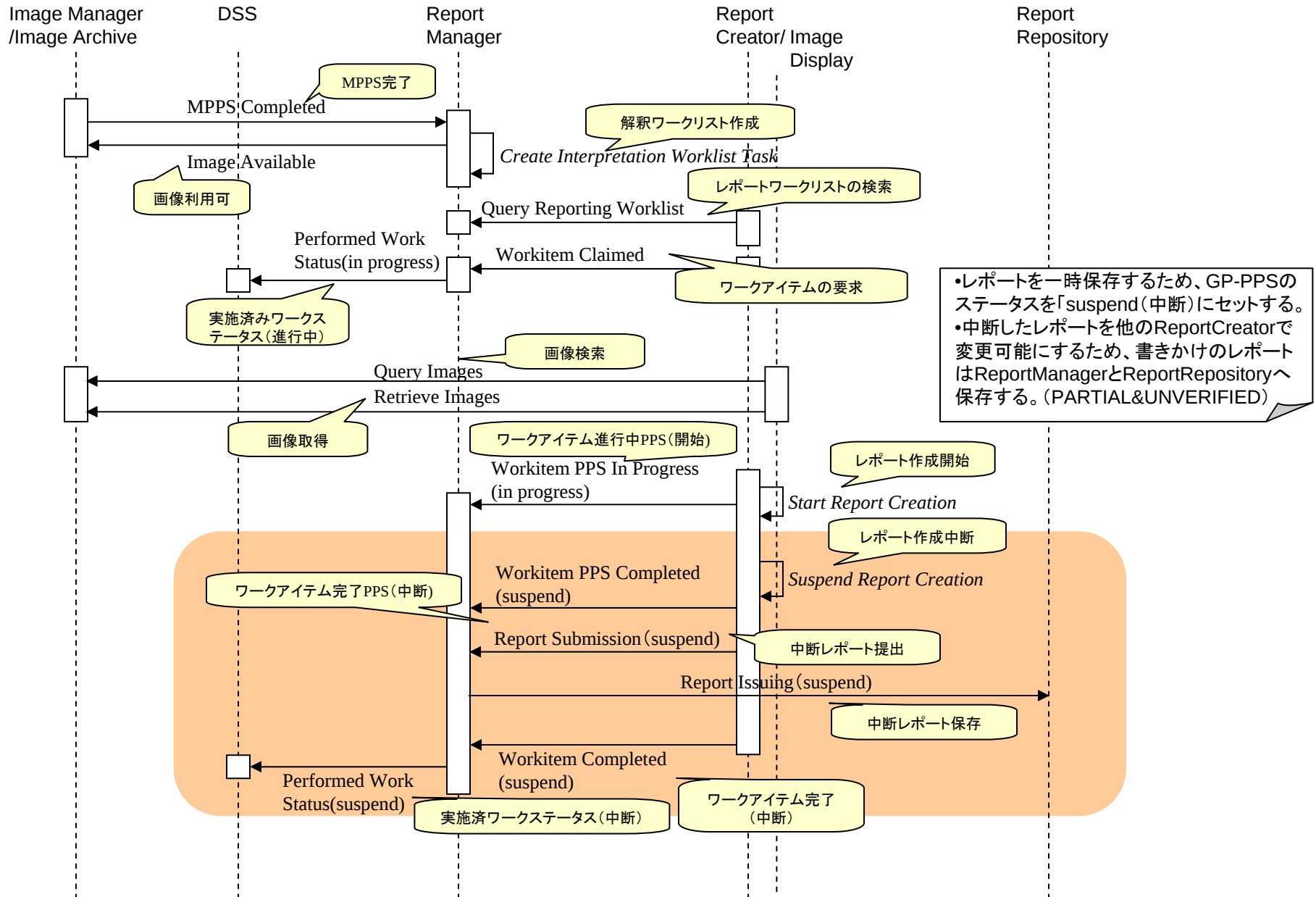
USECASE 12「中断(suspend)」

主たるユーザは読影医。このユースケースはユーザがレポートを直接書き込む。ユーザがテンプレートから定義されているコンテンツをコピーし、それを訂正して完成させることもできる(ユースケース3)。その書いている途中、レポート作成を中断し、レポート作成作業から離れる。このユースケースの最終的なワークアイテムステータスは
[Workitem PPS Completed(suspend), Workitem Completed(suspend)]
となり、workitemlistにはまだ存在する。

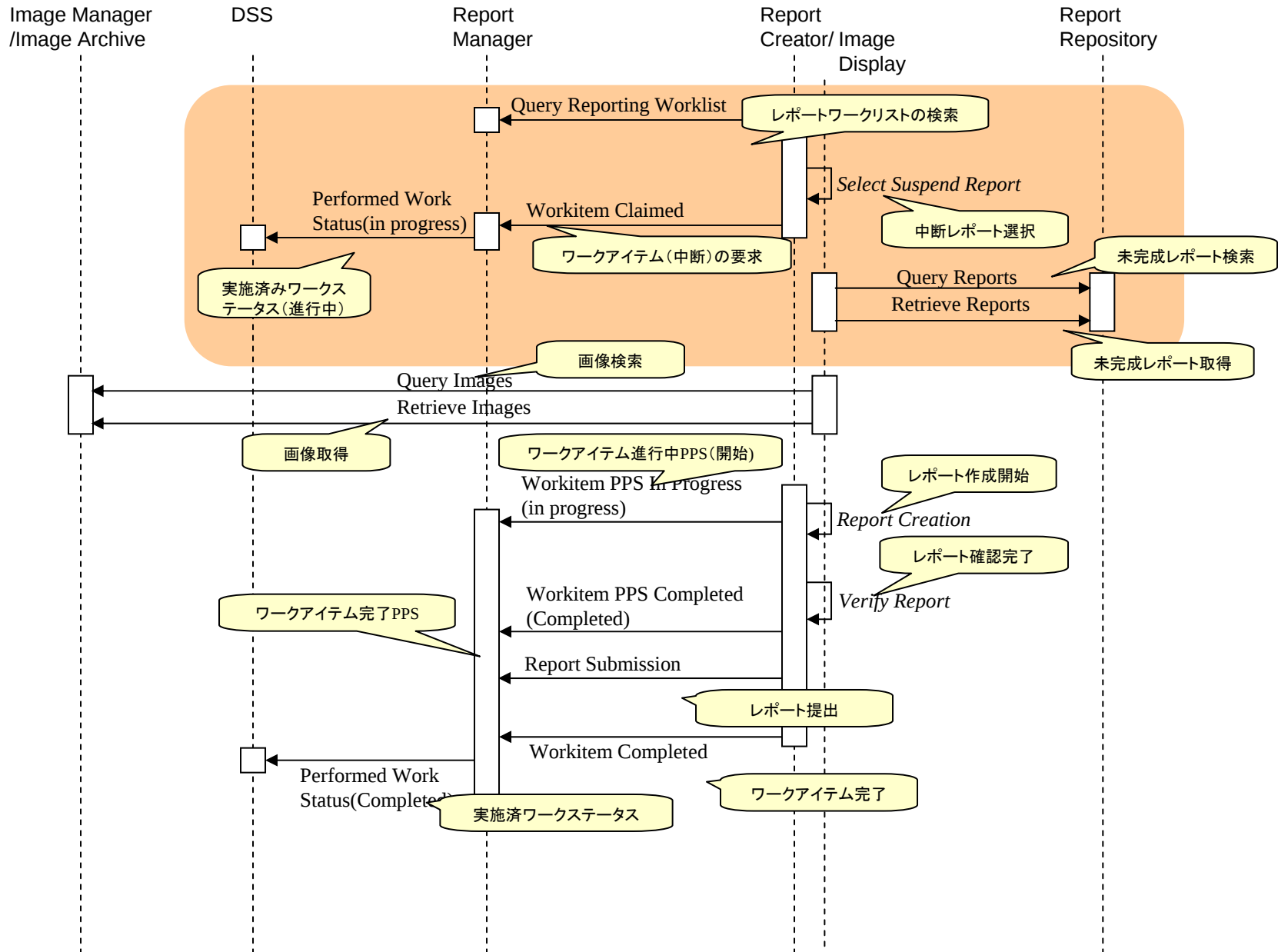
USECASE13「中断からの再開(Restart from suspend)」

主なユーザは読影医。中断レポートを再度開き、レポートの記述を再開する。記述が再開され完成されると最終的にはユースケースの3の最終と同じ。ワークアイテムはワークリストから除かれる。また、ワークアイテムステータスは”Completed”にセットされる。

Usecase12 中断レポートの保存



Usecase13 中断レポートの再開



Transaction (Usecase12,13)

- **Report Submission**
 - 中断したタイミングでCompleting Flag: PATIALとVerified Flag: UNVERIFIEDの書きかけレポートをReport CreatorからReport Managerへ送信する。
- **Query Reports**
 - Report CreatorがワークリストからSuspend(中断)を選び、レポートを再開したタイミングで、書きかけレポートを検索する。(Report CreatorにはQuery Reportsのトランザクションはないため、Report ReaderとのGroupingなどが必要)
- **Retrieve Reports**
 - Report CreatorがワークリストからSuspend(中断)を選び、レポートを再開したタイミングで、書きかけレポートを取得する。(Report CreatorにはRetrieve Reportsのトランザクションはないため、Report ReaderとのGroupingなどが必要)

IHE-JからIHEへの提案

検討した2つのユースケースについて
IHEのPlanning committeeへ日本からの提案を行った。



RWFについて実行ベースの検討がIHEで未実施。

今後(2007年)の予定

(1) RWFの技術的な検討がプロファイルの見直しレベルで必要であるが、米国はじめIHEでの検討が行われていないことから日本での課題解決にも問題があるため、一時中断。

(2) 現在のレポートの動向として、部門間でのレポートの参照が増えている。今後も増える傾向にある。

そこで、部門間でのレポートの参照の仕組みやデータの移行に対する課題が多くなることが考えられるので、部門レポートの他部門間の参照やデータ移行に活用できるHL7CDAを使った枠組み作成を新規目標としていく方向。

新規目標の実現のために、

具体的な活動内容(案)

放射線レポートだけでなく、内視鏡レポートを例にしたコンテンツ、HL7CDAマッピングの検討を行う。

HL7 CDA 、 HL7MDMメッセージの使い方を検討



ご清聴ありがとうございました。

診断レポート検討委員会では新たなテーマによる
皆様の参加をお待ちしています。

よろしくお願いいたします。

